



通信

HP 学校だより
R6.9.11
NO. 19
文責 伊藤美佳



ナス栽培を通して

10日(火)の朝、3年生と6年生がナスを収穫し、給食センターに搬入しました。7月より少なかったですが、それでもあの酷暑を乗り越えて36kgの収穫でした。そのナスを使った「なすカレー」が、11日(水)の献立です。幸田町全ての小中学校で豊坂のナスが入った「なすカレー」を食べてもらうことができうれしいです。ケーブルテレビが取材に来てくれていました。収穫、搬入、給食の様子が土曜日から放送されるそうです。ご家族で見ただけで、子どもたちが大きな達成感を味わうことにつながると思います。よろしくお願いします。

食べられそうなナスを収穫するとそれ以上に作業することはせず、ケーブルテレビの人の動きに気持ちがいってしまったり、蒸し暑さや虫から逃れるためにナス畑から離れてしまったりする子たちが多くいました。ところが、暑さや虫をものともせず草を抜いたり、必要のない枝を切ったりしている子たちもいました。子どもたちの学びとして野菜を育てることで収穫の喜びを味わわせたいと思っています。でも、それは初めて自分で野菜を育てる子どもたちに対してです。苦手な野菜を自分で育てて食べられるようになった子のお話を聞くと、自分で育てたことが「特別」と感じて食べられるようになったり、おいしいと感じたりするのだと思います。そう考えると、そこから成長した6年生に本当に味わってほしいのは、この子たちがやっていたような地道な作業です。地道に「手入れ」をすることで、野菜がおいしく育ち、多くの収穫を得られることでたくさんの人を喜ばせることができる、そんなことを考え、感じられる豊坂っ子になってほしいと強く願います。そして、今やっていることが、何につながり、どんなに楽しいすてきな未来が待っているかを想像できる、そんな豊かな感性を育てていきたいです。地道な「手入れ」を言われなくてもやっているそんな6年生の姿を見て、思わず笑みがこぼれました。

「あいさつ」

9月の2週目というのに本当に蒸し暑い日が続いており、登校する子どもたちのあいさつも、あまり元気がありません。そんな中、代表委員会が「あいさつ運動」を始めました。自分たちで「あいさつ」が大切だと感じ、始めたことです。ぜひ、自分たちが思う「あいさつのできる豊坂っ子」になるように、活動してほしいと願っています。

ところで、大人はどうでしょうか？横断歩道で立っていて、車の中から会釈をされたり、地域の方であいさつをしてくださったりすると、思わず笑顔になります。「あいさつ」が人間関係づくりのスタートだと考えれば、もっとも大切なスキルかもしれません。子どもたちがそのスキルを身に付けようとしているならば、大人が見本として示したいものです。子どもたちに胸をはって「あいさつすると気持ちいいね」と言える大人でありたいと感じています。

子どもたちの「あいさつ運動」は学校内で行われていますが、家庭でも、地域でもその輪が広がることを願っています。